

## ホソクロコメツキの形態について

大平仁夫

### Notes on the Morphological Structure of *Ampedus (Ampedus) tenuistriatus* (Coleoptera, Elateridae) from Japan

Hitoo ŌHIRA

National Institute for Physiological Sciences,  
Okazaki, 444 Japan

**Abstract** *Ampedus (Ampedus) tenuistriatus* LEWIS, 1894, was originally described from Kiga, Miyanoshita, Chuzenji, Nikko and Yuyama under the generic name of *Elater*. In the present study, the author has examined some important structures of this species by SEM-images as shown in Figs. 1-2 to facilitate its recognition.

本種は体長 10 mm 内外の黒色をした細長い種で、現在では本州、四国、九州の各地に広く分布することが記録されている。本種の実体についてはすでに大平 (1974) に示したように、G. LEWIS (1894) が箱根 (木賀、宮ノ下) や日光 (中禅寺)、それに熊本県 (湯山) などから採集した標本にもとづいて、自身が新種として記載したものである。しかし、その後の研究の進展により、日本の各地には本種の近似種が少なくとも数種は分布していることが判明しているので、原記載以降における分布記録についても再検討が必要になってきている。そこで、本種の実体をより詳しくここに報告することにした。

### 成虫の形態

雄。体長は 8~10 mm 内外。原記載では 10~11 mm になっているが、筆者が調査した日光産の総基準標本では体長 7.5 mm であった。実際、各地からの標本を検した限りでは、体長が 10 mm を越す個体はまれである。体は細長くてやや扁平状、黒色で光沢を有し、背面は暗褐色毛を生じ、頭部と前胸背板上にはやや長い毛を生ずる。触角は黒色~黒褐色 (第 2, 3 節はやや暗褐色) で、肢は黒褐色 (脛節は暗褐色~褐色、付節は通常褐色) である。

頭部の前頭横隆線の前縁中央部は弱く抑圧され、頭盾との境はやや不明瞭である (Fig. 1 D)。小顎肢の末端節は細長い三角形である (Fig. 1 H)。触角は細長く、末端は前胸背板の後角より末端 1 節ほど後方へ伸長する。第 2 節は短小で幅よりやや長く、第 3 節は弱い三角形、第 4 節はやや鉞状で、第 3 節の約 1.6 倍の長さである。また、これら第 2, 3 節を合わせたものは第 4 節とほぼ等長である (Fig. 1 E-F)。

前胸背板は梯形でやや扁平。背面からみた両側は、中央やや後方部においてもっとも幅広く、それより前方に顕著に幅せまくなり、それより後方は後角末端に向かって弱く内方へ湾曲する (Fig. 2 D、

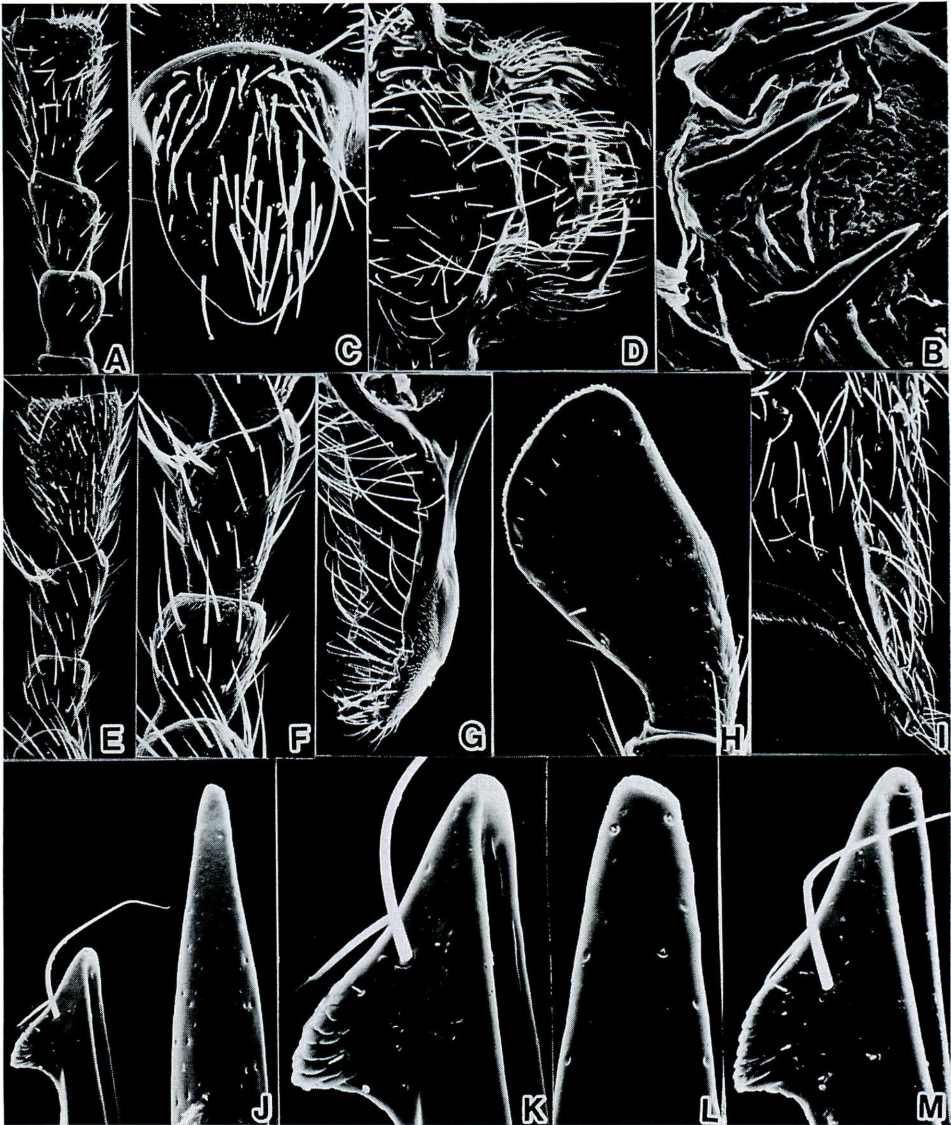


Fig. 1. *Ampedus (Ampedus) tenuistriatus*, male (except for A and B which are females), Mt. Hakusan in Gifu-ken. — A, Second to 4th segments of antenna; B, some spine-like setae in bursa copulatrix; C, scutellum; D, clypeal margin; E, 2nd to 4th segments of antenna; F, ditto, 2nd and 3rd segments of antenna (enlarged); G, prosternal process, lateral aspect; H, apical segment of maxillary palpus; I, right hind angle of pronotum; J, apical portion of aedeagus, dorsal aspect; K, ditto, left apical portion (enlarged); L, ditto, median lobe (enlarged) (apical extremity seems broken); M, ditto, left apical portion (showing a variation at outer angle).



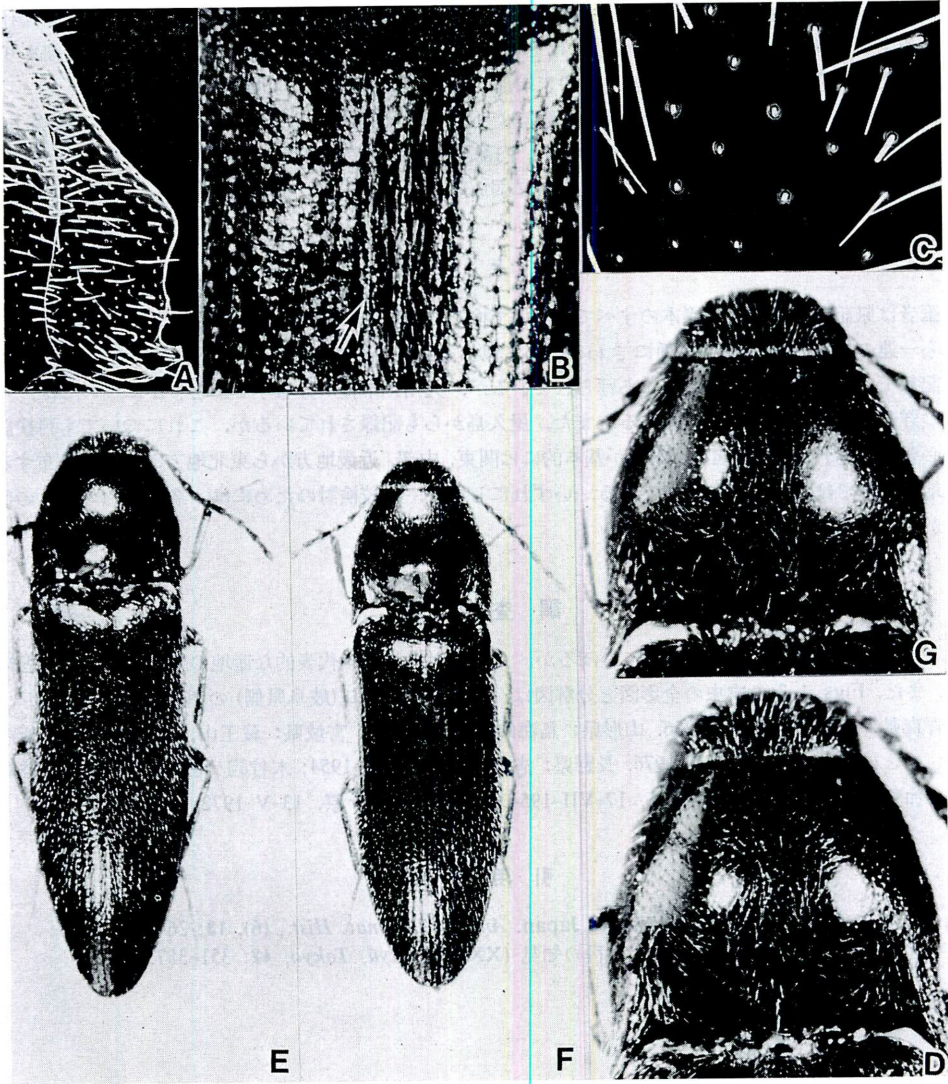


Fig. 2. *Ampedus (Ampedus) tenuistriatus*, male (except for F and D which are females), Mt. Hakusan in Gifu-ken. — A, Basal plate; B, basal area of elytral striae (arrow indicates elytral suture); C, some punctures on the disk of pronotum; D and G, pronotum in dorsal aspect; E-F, adults in dorsal aspect.

G). 前胸腹板突起は、前肢基節腔を越えて弱く内方へ湾曲、後半部で水平状になる (Fig. 1 G)。小盾板は舌状で、両側は湾曲して細まる (Fig. 1 C)。

上翅の条線は浅く印し、間室部は一般に扁平で、弱くしわ状である (Fig. 2 B)。腰板の外形は図示したようである (Fig. 2 A)。

交尾器の外形は図示したようで、側突起の末端部の三角状部は幅よりやや長く、外縁は弱く内方へ

湾曲して伸長し、外角部には数個の小段刻を生ずる (Fig. 1 K). しかし、この段刻部の形態には、個体による若干の変異がみられる (Fig. 1 M はその変異の 1 例を示した). 中央突起は末端へ漸次細まり、末端は内方へ湾曲してとがる (Fig. 1 L の末端部は破損しているため、切断状になっている).

雌. 一般外形は雄に類似するが、体は一般により幅広く、両側はより平行状である。また、触角はより短かく、末端は前胸背板の後角に達しない。内部生殖器の交尾囊内には、通常 25~30 本内外の刺状片を有する。各刺状片は発達が悪く、中央部に弱いくびれが生じている (Fig. 1 B).

### あ と が き

筆者は原記載で扱われた標本のすべてについて検していないので、正確なことはわからないが、これら一連の標本のなかに、本種にきわめてよく似た近似種が含まれていることは充分に考えられる。原記載では熊本県の湯山が産地にあげられているが、九州に本種が分布するかどうかについては、今後の詳しい調査が必要だと思われる。また、屋久島からも記録されているが、これについても再検討が必要かと思われる。筆者は、本種が基本的には関東、中部、近畿地方から東北地方にかけて分布する山地性の種ではないかと判断している。いずれにしても、比較検討のためには、各地からの多くの個体が必要である。

### 調 査 標 本

この研究で調査した個体は多数にのぼるが、ここでは各地域の代表的な産地のものを示すにとどめた。また、Figs. 1-2 の成虫の全影図と分解図は、すべて加賀白山 (岐阜県側) の個体を用いた。

青森県: 十和田, 17-VI-1956. 山形県: 鳥海山, 11-VI-1977. 宮城県: 蔵王山, 24-VII-1976. 新潟県: レンゲ峠 (南越), 29-VII-1976. 長野県: 志賀高原, 11-VII-1954; 木曾駒ヶ岳, 6-VII-1954. 岐阜県: 加賀白山, 20-VI-1972; 平湯, 17-VII-1954. 奈良県: 大台ヶ原, 13-V-1972.

### 引 用 文 献

- LEWIS, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annls. Mag. nat. Hist.*, (6), 13: 26-48.  
大平仁夫, 1974. 日本産コメツキムシ科の知見 (XXI). *Kontyû, Tokyo*, 42: 351-357.